平成２８年度　第１回安来市総合教育会議　議事録

１．日　時　　平成２８年７月２６日（火）１５時３０分から１７時３０分

２．会　場　　安来中央交流センター　第６会議室

３．出席者

（構成員）　安来市長 近藤宏樹

教 育 長　勝部慎哉

教育委員　赤名佐代子

教育委員 少林浩道

教育委員 森井優

教育委員 加藤隆志

　（事務局）　総務部長　清水保生

教育部長　奈良井丈治

教育総務課長　吉野文康

学校教育課長　難波真章

総務課長　前田康博

教育総務課総務係長　宇名手由子

総務課専門官　堀内志美栄

　（司　会）　総務課長　前田康博

４．傍聴者　　なし

５．議　題　　①学力向上に向けた取組みについて

　　　　　　　②子どもの体力向上と食育について

　　　　　　　③ふるさと教育の推進について

　　　　　　　④いじめ防止にかかる取組みについて

　　　　　　 　⑤その他

　　　　　　　 ・今後の児童数・生徒数について

６．内　容

○前田総務課長

皆様にはお忙しい中、総合教育会議にご出席いただきまして有難うございます。ただ

今から、平成28年度第1回安来市総合教育会議を開催いたします。本日の会議の進行を行います総務課長の前田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、近藤市長にご挨拶をいただきます。

○近藤市長あいさつ

ただ今より、平成28年度第1回安来市総合教育会議を開催させていただきます。教育委員の皆様方におかれましては、公私にわたり何かとお忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

昨年度は、この会議を4回開催する中で、安来市の教育大綱を策定いただくとともに、安来市の教育に関して貴重なご意見をいただくなど、大変有意義な会議が開催出来たものと思っております。

さて、我が国では都市部への一極集中、また少子高齢化の進行による地域の人口減少が加速化し、その対策が喫緊の課題となっておりますが、安来市も向こう10年のまちづくりの指針となる「第2次安来市総合計画」を昨年度策定するとともに、人口対策を市の最重要課題に位置づけ「安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に伴う各種事業に対し、全庁を挙げて取り組んでおります。

そうした中にあって、私どもの使命は安来市の財産である子どもたちが、将来への夢や希望を持ち、一人一人が生きる力をしっかりと身につけることが出来る教育環境の整備に取り組んでまいることでありますし、また、地域社会全体で子どもたちを育んでいく環境を構築することであると思っております。

教育委員の皆様方と、私ども執行機関である市長部局とは、これまでもいろいろと意見交換をさせていただきましたが、皆様方と連携を図りながら、安来市の教育に対して直接話し合いが出来ることを、大変うれしく思っております。

この総合教育会議での意見は、安来市の教育環境の整備のために有効に活用させていただきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見等いただきますようお願い申し上げ、簡単ではございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

○前田総務課長

ありがとうございました。それでは、会議に入らせていただきたいと思いますが、

本日の会議は概ね１時間半を予定しておりますのでご協力をお願いいたします。

それでは、市長に議長として会議の進行をお願いいたします。

○議長（市長）

それではレジメにしたがって進めます。

まず、議題（１）「学力向上に向けた取組みについて」説明をお願いします。

○難波学校教育課長

　（資料に基づき説明）

○議長（市長）

学力向上に向けた説明がありましたが、委員の皆さんご意見をお願いします。

　ある会で、松江の県会議員は、島根県の学力は低い低いというが全国平均の1点、2点の差だから、それより健やかに育った方がいいと言われた方があり、私は憤慨しました。やはりベストを尽くしていかなければならないと実感しました。日本の学力そのものが一時危惧されたこともあって、文部省もかなり問題視して、ゆとり教育が緩み教育だということでまた、急遽力を入れだして持ちこした。平均ですけれど、先進国、途上国の60カ国の中で、日本は家庭での学習時間がものすごく短いという統計があります。そういうところで最近子どもが勉強しなくなった。ゲームとかばかりしている。勉強の国際競争ばかりではなく、科学技術、産業技術などの力にもどんどん差が出来ている。今、まだ日本の産業で何とかやっているけれど、おそらくもう10年、20年すれば日本はノーベル賞など取れなくなって、韓国や中国ばかり取るんじゃないかな。産業面からばかり学力を見てもいけませんが、人間形成の面も考えなければなりません。若い子が社会規範とかが薄れている。昔、受験地獄ということがありましたが、そういう時の方が社会問題など殆んど起きていない。校内暴力も家庭内暴力も起きていない。私は、勉強しよう主義じゃない、人格も食育も大事ですが、あまりにもそういう風潮が最近出てきたようなので、皆さんはどうお考えかお聞きしたい。色々な意見を言ってください。

○加藤委員

　小学校は非常に点数が低いが、同じ年の中学校を見ると、そうでもない。それぞれの年代の特色が、たまたま数字となって出ている。この間市長とも一緒でしたが、情報科学高等学校と安来高等学校との会で、校長先生から地元の学校を選択してもらうにはどうしたらよいかとの話がありました。高校になると選択肢が広がって、何を基準にどういう方向性を持って、何を求めているか。それが合致した学校を目指していく。県下で有名な学校に行きたいということになると中学校で頑張ります。そうすると中学校の時に時間とお金を使ってでも有名進学校を目指す。松江の北校や南校のトップクラスには安来出身の子が多いというのは、自分に対しても厳しく、勉強に対して向かう姿勢があるので、松江に行っても優秀な成績を得られる。家族一丸となって目標を目指しているから結果が出ている。

小学校・中学校に限定して言えば勿論先生の資質の問題もありますし、環境の問題もある。しかし親の立場から言わしてもらうと、勉強ばかりしていてもいけないと思います。小学校の間に部活、ボランティア活動、地域活動等積極的に参加した子は、中学校ぐらいから自立性が出てきて、ほっておいても自分で何とかしないといけないと自覚意識が出来てくると思います。しかし、ほっておかれると縮こまった子になってしまって、学力も低下していくのではないかと思います。小学校・中学校の時にたとえ点数が悪くても他のことではしっかりしているというような子どもたちの育成に教育委員会としても係わって行ければいいなと思います。２番に係わってくることですが、学力と体力向上を重視していただきたい。今、何が出来るかというと困りますが、今学校も地域に開かれた学校作りという観点で進められていますので、何かしらの関与が今の立場としてではなくて、一市民としての係わりが出来るのではないかと思います。

○森井委員

　心技体という言葉があります。「体」が一番最後に来ていますけれど、自分の考えは「体」というのが一番大事な部分です。体心技と続く、これが一番人間のバランスとして良いパターンではないかと思います。今食事を通して健康について勉強します。体が健康でないと集中力も出来ません。体がたくましければ心もたくましくなって、学力も後からついて来ると思います。長い目でみて、限られた予算の中で図書館、専門の先生を付けたりとか色々なことの結果はこれから出るのではないかと思います。体と心をたくましく育てましょう。優秀な先生がいらっしゃれば視察され勉強をしてもらって、実際現場に生かしてもらいたい。野球でも何でも指導力のウエイトが高くて、8割方監督の勝負だといわれています。指導力がある先生を育てるシステムが出来れば良いと思います。

○赤名委員

　家庭学習教育が大事と説明にありましたけれど、今の親御さんは昔より忙しくなっているのではないでしょうか。親が子どもの宿題を見たりする。そうすることで小さいときから勉強をする癖が付くと思います。家庭や親にその力がなければ、自学できるような子どもを育てていくために、勉強したくなるような授業作りをやってくださる先生の育成というのも大事になってくるのではないでしょうか。先生方の授業の向上に結びつくような予算を付けていただきたいと思います。もう一点は、学校司書さんを各学校に一人ずつ配置していただいています。直ぐには司書さんを付けていただいたことが学習の学力向上には結びつかないかも知れませんが、長い目で見ると学習の向上で活用の方で応用問題、文章読み、書く力に結びついていきます。学力テストの結果が今の中学生はある程度良いという説明がありましたけれど、学校司書が赴任したのがこの子らが小学生３年生の時からということになります。成果が出ているのではないかなと思います。本を読む生徒、借りた冊数も増えているということですので、図書館の充実が整いこれからも続くようお願いします。

○少林委員

　学力調査の点数の事が話題になりましたが、わずか１学年だけの結果だけで、これを見て全然駄目だとか、良かったとかとは言えないと思います。安来はどうあれ島根県は全国的には低いということが事実であるということで、島根県として学力向上ということに取組まなければならない。しかし、公教育として考えた時に一市の教育委員会として、どう取り組めるかは、色々な施策が県と密接に結びついているため分かりません。資料の中に学力向上のプロセスが書いてありますが、非常に分かりやすい図だなと思います。やはり子ども達が主体的に学ぼうという意識を持つということ、世界に通用するような人間に育てる。子ども達が主体的になれる学びの場を作ることが大事だと思います。子ども達が勉強したくなるためには、それを教える教師の職場環境整備が重要です。学校現場は大変忙しい状況です。ボランティアに適切な場面で入っていただくとか、備品関係等がすぐ使えるような予算措置を更に充実させていただければ良いと思います。ＩＣＴの充実など現場の状況に応じながら措置していただければ先生方の意識改革がなされ、それが子ども達にも伝わっていくと思います。

今、学校現場も忙しくて、研究を継続的に進めて、良い実践を参考にして事例研究をしたいと思ってもなかなか時間が取れない。他府県の教育委員会、市町村の教育委員会のように安来市も研究部門ももう少し充実して現場に入れるようにしていけば良いと思います。最後の家庭学習ですけれど、今子どもの貧困ですとか、格差社会が大きくなって来ていると言われています。親御さんも忙しくて、なかなか子どもを見てやれない。たとえば放課後児童クラブで、ボランティアを配置して子ども達に学習援助してやる。そうした配慮をしていただくと、安来市として子ども達に手を差し伸べられるかなと思います。

○教育長

　学力向上、いかなる方法でということになりますが、子ども自身が目的意識をいかに持つか、そしてそれに向かって勉強をする。つまり進路指導、キャリア教育をしっかり進めることが重要です。指導性の有る先生、指導力は大事でして、これを高めて行かなくてはなりません。

島根県教育長会議が先日ありまして、その中でも話題になりました。それぞれの市町村に教育委員会があり、そこに指導主事もおられて、各学校を回られて指導されているが、この広範囲ではそれだけで教員の資質向上は難しいと思う。秋田県が実施していますスーパーティーチャー認定制度、秀でた先生方を中心に指導力を高める制度、そういったものを島根県に求めていこうと話しています。鳥取県ではエキスパート教員という制度を平成20年から実施しております。これは教科ごとや学校の先生、高校の先生もありますけれど、必ず自分は授業を公開する。中学校区における他校の教員の指導に回る。県外の研修には必ず参加をする。そうした制度です。そういう認定制度の導入を要望していきたい。

それから、もうひとつの話題は部活もしくはスポ少です。本来学校が週5日制になったのは家庭で過ごす時間が必要ということだったはずなのに、実際にはスポ少等に非常に時間が割かれている。子ども達にアンケートをとると、非常に疲れているという結果が出ている。大切なことであるが、子供たちも教員も土日なく活動していて、疲れているんじゃないか。休むことも練習であるということを知っていただきたい。盛んなことはいいことなのですが、あまりにもエキサイティングにやりすぎているのではということでした。学校での子ども達の状況を視点としたアンケートをしてみるのも一つの方法でと思います。学校では疲れて眠いなんてことではいけないと思う。

そして、来年度から島根県の高校入試制度が改革されます。今の中学3年生が受験するときから、第1希望・第2希望制がなくなります。第１希望を失敗しますと、定員割れした公立学校の2次募集しか受けられなくなりますので、選択肢が大変厳しくなります。子ども達もこれから意識を変えなければならないだろうなと思います。

○議長（市長）

　学力向上については、いろいろ考えもあり親御さんの考えも様々です。教育委員会としては学力向上していかなければならないと思います。指導員の育成、指導力の向上、それに対する予算の必要制など今様々な意見を頂きました。

　学校司書配置についても言い出した県も結果が直ぐ出ないので焦っていると思いますが、またこのことに付いても県に要請等して行きたいと思います。

今、子どもの主体性の重要性はわかりますが、指導する者が２歩３歩前に出て高い所からの強制も必要だと思っています。

安来の教育をどうして行くか委員の皆様に色々な意見を頂きながら、安来市の子どもの学力向上に繋げて行きたいと思います。

○議長（市長）

続きまして議題（２）「子どもの体力向上と食育について」、説明をお願いします。

○難波学校教育課長

（資料に基づき説明）

○議長（市長）

　全国と島根県の比較でありますが、安来市の統計的なデータは取れないものですか。

○難波学校教育課長

　抽出した物で県に提出しておりまして、安来市の中で独自の統計処理をしていない現状です。県としての実態を取り纏めているというのが実態でして、島根県の現状と全国の比較です。

○議長（市長）

安来の子どもの体力も分からないのではいけない。独自のデータを作らないといけない。

○難波学校教育課長

　分かりました。

○議長（市長）

委員の皆さんご意見をお願いします。

○加藤委員

　日野町では軟式テニスの元全国ランキング３位だった方を教育委員会に採用してテニスで盛り上げようという取り組みを今年からされています。プロの指導者による専門的指導を週１回でも受けることができれば、効果は出てくると思います。そういう町であれば近隣からも良い指導者がいるということで、親御さんも町に来たいと定住対策にもなると思います。安来はどうしても流出の方が多いので、そういう特徴ある事を考えられたら良いと思います。安来といえばバレー、フェンシングなどありますが、上位になると転出してしまう。体力向上に向けた特色ある配置も必要であると思います。

○議長（市長）

　昔は全国的な人が指導しておられた。しかし今は、部活もされたことのない先生が顧問になったりしておられる。どうにかなりませんか。

○教育長

　他県や他市では世界的に有名な選手を雇用して、小中学校のみならず社会人チームの指導に派遣しています。

○赤名委員

　食育ですけれど、給食センターが出来て中学校も給食を食べるようになり良いことだと思っています。ただ、食育とは親から子へ、それからまた親に作って貰って食べたものをわが子へと作ってやるという、縦の繋がりが結構あると思います。コンビニが増え、単品とか、丼だけというような食事で済ますのが多くなっています。やはり主菜があって、一汁三菜といいますけれど、主食があって汁があって、ちょっとした小鉢がありデザートがある。これが一つの食事として成り立っているということは、代々それを作ってもらって、それをわが子にも作り食べさせることで受け継がれているのではないかと思います。給食も主食、汁もの、主菜があって和え物、サラダとかがある。それを見ながら学校の方でも指導されて行かれれば良いと思います。今お弁当を作って行くという活動が小学校でも中学校でもなされていますけれど、おかずでも肉魚ばかりだけでなく、そこに彩りを加えた野菜を入れて弁当にするなどという指導とかが食生活の食育にあたると思います。折角の給食を活用して家庭での食事、自分で作るときになっても主食、副菜で食事が成り立っていることを指導していただけたらと思います。

○森井委員

　体力の方に、昔は体育というと陸上ばかりしていたような気がします。今あまり陸上を見ませんが、時間は減っていないですか。統計を見ると体が硬い、握力とかパワー系はそこそこだけれど、瞬発力とか50ｍ、シャトルランとかそういったものが少し劣っているのではないかなと思うんです。やっぱり色々なスポーツ、水泳もその一つで大事だと思いますが、陸上は一番基本的なものではないかと思います。

○難波学校教育課長

　体力は全体として残念ながら下がっておりまして、昭和60年とか61年とか、あのころが一番ピークでした。体は大きくなっていますが・・・。

学習指導要領の指導内容に沿って昔も今も行われていますので、競技のバランスは変わって無いと思います。春先に全小学校陸上大会が行われていまして、中学校も同じようにそれぞれの活動をやっていますので、陸上だけが低いという訳でもなく、逆にバランスよく取り組まれているかも知れません。

○議長（市長）

　昔は学校の周辺を走ったりしたものだが、最近はそんなことをしているのか。

○難波学校教育課長

小学校は学校に来た子から走る、そして業間マラソンをする学校は大変多いです。例えば、布部小学校は布部小の周りでマラソン大会をします。行事は各校でかなり行われています。

○議長（市長）

　食育については、生命の根源ということでとても大事なことだと思います。

○教育長

　食育に付きましては、日本の食生活とか食文化とかということで、給食センターも行事食を作ったりしておりますので、それが家庭生活に繋がれば良いと思っています。ただ、新しい食育ということで、国の方はただ栄養学的だけでなく食とスポーツ、食と健康・食と環境、食と学力というテーマの中で、スーパー食育スクールというのを全国の小中高と指定をし、実施しています。食育についてはそういう方向にも進んでいるということです。

○議長（市長）

続きまして議題（３）「ふるさと教育の推進について」、説明をお願いします。

○難波学校教育課長

（資料に基づき説明）

○議長（市長）

説明が終わりました。ふるさと教育について委員の皆さん何かございませんか。

○議長（市長）

　安来は安来節ばかりではいけません。日立金属は世界の鋼を作っていますよ。工場見学でもさせてやりたい。

また、月山、出雲神話など事実と併せて教えても良いと思います。

○難波学校教育課長

　神話も取り入れていくか考えていかなければならないと思っているところです。

　月山はどのように教材化していけばいいのか教育委員会の課題でもありますが、松江市教育委員会と一緒になって学習にどのように取り組めばいいのか検討しておりまして、広瀬交流センター館長も教育委員会の代表としてこの会に出席しておりまして、どうすればいいのか教えてもらいながら考えて行きたいと思います。日立金属につきましては、市内全校の小学校5年生が見学させていただいております。

○少林委員

　小学校は地域の方、地元の方々が直ぐ近くにいらっしゃいますから、そうした方々にお世話になって地域に根ざしたふるさと教育をします。安来市版ふるさと教育カリキュラムといいますか、地元の地域と市という大きなところで知っておいて欲しいと思っています。昨年度から小中学校の9年間を見通したようなカリキュラムが作られておりました。充実した広域のふるさと教育が行われ、誰もが安来から出たときに、知っていると自慢して話せるようになるといいなと思います。

○赤名委員

　古事記の話が出ていましたが、井尻小学校は比婆山登山をして年一回は比婆山の事を学んでおられます。地元の方から話を聞いたりして先生も生徒さんと一諸に学習していらっしゃいます。また、地域行事に校長先生も参加して地域のことを勉強しておられましたので、やっぱりそういうことをしながら学校の中でも生かされているのかなと思いました。

○議長（市長）

　先般、中学の校長先生と一緒に会食をする機会がありまして、月山の事を話したら知っておられる先生は少なかった。他市から来られれば分からないので、まず先生から学んでもらわないといけない。

　○議長（市長）

　続きまして議題（４）「いじめ防止にかかる取組みについて」、説明をお願いします。

○難波学校教育課長

（資料に基づき説明）

○議長（市長）

説明が終わりました。委員の皆さんご意見をお願いします。

○加藤委員

　島根県は自死される方が多く全国でも上位のほうです。いじめとか不登校の延長で最終的に自死を選択される。そういった事にならないようにしてやりたい。子どもの同級生に不登校の子もいます。突然学校に来なくなった。分からない状態が問題である気がします。自死に至るまで親御さんも気が付かないケースが非常に多いようです。今年のゴールデンウィークに東京の中学の女子生徒二人が飛び降り自殺をした事件がありました。私も子を持つ親としてアンテナを高くし、会話をするようにしています。大型連休など休み明けに多いようです。家庭もですが学校も配慮されておられると思いますけれど、いじめと不登校の延長線上に繋がる。我々もそういう意識でいないといけないかなと思います。

○議長（議長）

　他にはありませんか。自死に対しては、学校で何かの時間に話し合うことはありませんか。

○難波学校教育課長

　休み明けの時などに発生率が高いデータの周知を図っており、特に見守りを強化するようお願いをしております。思春期はどうしてもいろいろと悩む年頃です。自死を事前に防ぐための生徒同士の関わりということで、昨年研修会を行ったり小学校ではストレスとの付き合い方について鳥取大学の先生に来てもらって授業しました。また、学級集団の状況調査を行い、面談等対話をしております。親御さんにも親子の対話を深めていってもらうようお願いしています。

○議長（市長）

　国際的に日本は自死が多いですからね。島根県も多いです。昔は「生」に対する執着があった、しかし今は恵まれすぎて「生」について意識が薄れている。

○加藤委員

　昔は、サンショウウオなど学校で飼っていて死に直面し、涙を流していた。今はそれが無い。

○議長（市長）

　はい、他にはありませんか。今日は結論を出すのではなく色々意見を頂くという会にと思っております。

続きまして、（５）その他といたしまして「今後の児童・生徒数について」説明をお願いします。

○吉野教育総務課長

（資料に基づき説明）

○議長（市長）

　出生率が少しずつでも回復すればまた違いますが、出生率が上がってもお母さん方の絶対数が少なければ総数が増えません。なかなか簡単な問題ではないです。これは参考にしていただきたいと思います。

活発なご議論を頂きましてありがとうございました。

○前田総務課長

　この会は、年に2回予定しておりまして、次回は11月に予定をしておりますが、また緊急に何かあればまたお集まりいただきたいと思います。

それでは、以上を持ちまして、平成28年度第１回目の総合教育会議を閉会といたします。ご苦労様でした。